

金春流

杜

KAKITSUBATA

若

シテ 高橋忍

金春流 × 宝生流

# 華の競演

宝生流

熊

YUYA

野

シテ 藪克徳



(公社) 金沢能楽会提供

撮影 辻井清一郎

令和8年

3/20 金祝 13時開演  
(12時開場)

石川県立能楽堂

会場  
お問合せ

〒920-0935 金沢市石引4丁目18-3  
Tel・Fax 076-264-2598

料金

前売り **5,000円** 〈当日 5,500円〉 **全席自由**

※高校生以下は無料ですが、入場券が必要となります。  
入場券は、石川県立能楽堂でお求めください。

主催：いしかわの伝統文化活性化実行委員会  
石川県文化振興課内 〒920-8580 金沢市鞍月1丁目1番地

チケットのお求め

石川県立能楽堂 (Tel 076-264-2598)

石川県立音楽堂チケットボックス (Tel 076-232-8632)

香林坊大和プレイガイド (Tel 076-220-1332)

※石川県立能楽堂以外でのチケット販売は公演日の3日前までとなります。  
※オンライン予約は公演日の3日前までとなります。

オンライン予約は  
こちらから →



令和7年度文化庁文化芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業)





番組

流派の違い

司会進行

金子 美奈(北陸朝日放送)

対談

金春流……………中村 昌弘

宝生流……………高橋 憲正

実演

仕舞「嵐山」

金春流……………シテ 金春 穂高

地謡  
金春 飛翔  
本田 芳樹  
本田 布由樹  
金春 嘉織

宝生流……………シテ 佐野 由於

地謡  
佐野 弘宣  
渡邊 茂人  
佐野 玄宜  
渡邊 隆士

金春流×宝生流

華の競演

金春流 能杜若

かきつばた

シテ(杜若の精) 高橋 忍  
ワキ(旅僧) 舘田 善博



高橋 忍 たかはししのぶ

笛 小野寺竜一  
小鼓 鳥山 直也  
大鼓 柿原 孝則  
太鼓 麦谷 暁夫  
金春 穂高  
金春 飛翔  
井上 貴寛

地謡  
金春 飛翔  
本田 布由樹  
中村 昌弘  
金春 嘉織  
本田 芳樹  
山井 綱雄  
辻井 八郎

1961年(昭和36年)奈良県大和郡山形に産まれる。國學院大學久我山高校卒業、國學院大學法学部法律学科卒業。79世金春信高及び父高橋汎に師事。1971年(昭和46年)能「安宅」の子方で初舞台。1982年(昭和57年)能「経政」で初シテ。「獅子」、「乱」、「道成寺」、「翁」、「勸進帳」、「起請文」などを開曲。カナダ、ドイツ、フランス、アメリカなどの海外公演に参加。学校での能楽講座を頻繁に行ない、東京や関西を中心とした稽古場で能楽の普及活動に尽力。金春流座、SOCIETYの代表。(公社)金春円満井会理事長、公社 能楽協会 東京支部 副支部長、(社)日本能楽会理事。重要無形文化財総合指定保持者。

宝生流 能熊野

敷 克徳 やぶかつのり



休憩15分

シテ(熊野) 敷 克徳  
ツレ(朝顔) 木谷 哲也  
ワキ(平宗盛) 北島 公之  
ワキツレ(從者) 渡貫 多聞

笛 江野 泉  
小鼓 住駒 俊介  
大鼓 飯嶋六之佐  
後見 佐野 由於  
松田 若子

地謡  
田屋 邦夫  
松本 博  
渡邊 隆士  
佐野 弘宣  
高橋 憲正  
島村 明宏  
渡邊 茂人  
佐野 玄宜

1974年(昭和49年)金沢生まれ。敷俊彦の長男。19代宗家宝生英照、20代宗家宝生和英に師事。1980年(昭和55年)鞍馬天狗「花見で初舞台を踏む」。  
2008年(平成20年)初シテ「車僧」。これまでに「石橋」「道成寺」「乱」を披露。  
重要無形文化財総合指定保持者。  
東京大学、相模女子大学にてクラブの指導にあたる。自身の同門会能風会を主宰。

あらすじ

杜若

僧が都から東国へ向かう途中、三河国八橋で杜若の見事さに見惚れていると、忽然と女が現れる。女はここが杜若の名所であり、在原業平が「かきつばた」の五文字を句の頭に置いて「からころもきつなれにしづましあればはるばるきぬる」たびをしそおもふ」と詠んだ場所であると語る。女は僧を庵に招くと、業平と高子の後の形見を身につけて現れ、杜若の精であると名乗る。業平が歌舞の菩薩の化身であり、その和歌の言葉は非情の草木をも救いに導くものであると教え、美しく舞って夜の白むとともに消え失せる。

熊野

遠江の国、池田宿の主人である熊野は、都で平宗盛に仕えている。故郷の母が病で臥せており、見舞いのために帰郷したいと願ひ出るが宗盛は聞き入れてくれない。熊野の家の侍女である朝顔が、故郷から母の手紙を持って都へ来たので、手紙を宗盛に読み聞かせて帰郷の許しを願う。しかし宗盛は帰郷を許さず、熊野を清水寺の花見に連れ出した。宴席で所望された舞を披露していた熊野は、急な時雨で散った花を見て、母を想う歌を詠む。心打たれた宗盛は帰郷を許し、熊野は急いで故郷へ帰った。

石川県立能楽堂

